

造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 10. 11 第51号

<https://www.zoukeimoriage.com/>



「SPACE—II」展を参観して

2023年9月(火)12~17日(日) 会場：アートガーデンかわさき

テーマは『いのち』

SPACE-IIに行ってきました。入り口で目に入ったのは広いホールの正面全体に展示のものでした。

近づいて見たらなんとも愛らしいてんとう虫の集団でした。初日にお邪魔しましたが、まだ準備中で、ご自分のスペースにてんとう虫を取付中でした。一匹一匹のてんとう虫の頭部と尻の2か所を釘で打ち付けていました。床から天井まで高い脚立に乗って取り付けるのですが、作業の様子自体に迫力があり圧倒されました。展覧会の別の見方を教えて頂いた気がします。脚立を抑えていた先生に伺ったところ「製作に何か月かかったのか、脚立の上で取り付けている先生が一匹ずつ丁寧に作られたのです。」とのことでした。てんとう虫の中には綿のようなものを入れて一匹ずつに優しくいのちを吹きかけながら作られた150匹のてんとう虫と、製作者のお年が、88歳(米寿)と伺い、天井に届く脚立の上で作業中の製作者に思わず一礼をしました。



8人の先生の作品が広いホールに展示されていて、テーマである「いのち」の重さを感じさせて頂きました。さらに奥深い意味がそれぞれの作品からにじみ出ているような気がしました。今世界では現実には戦争が起きていて、家や建物、大自然が崩壊され、その戦争の激しさで大切な家族と離れ離れになった悲惨さを、赤色や朱色・オレンジ色等のリボン(布)で、様々な三角形に貼り詰めて激しい戦争の炎を表現し、素材によっても表現の仕方が様々なことを知りました。過去の戦争経験者の話と現実起きている戦争の凄まじさが重なってくるのでした。「アートの世界」は人間の心、生き様を発信し続けていました。

私は、乳幼児と接し「子どもたちにとって造形とは…」の学びに触れてきました。SPACE-II展では、「いのち」のテーマを与えられて作者達が素材と向き合ってから作品にしたり、考え抜いてから素材選びをしたり、と、テーマを意識して製作に取り掛かる姿は様々です。その作者たちの奥深さに触れ、大先輩の先生方のアートと向き合う様々な姿勢を学ばせて頂きました。

副会長 増田 ツヤ子

「SPACE展」は、かつて「もりあげる会」に関わっておられた大先輩の方々が中心となって企画している作品展です。



9月の月例会を終えて

9月23日(土) ほどがや地区センター

9月の月例会は、研究大会の反省とこれからの会の運営について、運営会議による話し合いのみで行いました。

主な決定事項として、

○ 夏の研究大会の名称を

「造形教育研究大会」から「造形教育をもりあげる会研究大会」とすることにしました。

これにより、様々な案内をするときに、造形教育をもりあげる会の研究大会であることがはっきりとわかるようになると思います。

○ 来年夏の研究大会の日程と会場も決まりました。

2024年(令和6年)9月7日(土) 横浜ワールドポーターズ イベントホール

例年7月に夏の大会は行っていましたが、会場を予定している「横浜ワールドポーターズ」が大変人気があり、7月、8月の土曜日、日曜日は全て埋まっていました。

その次の大会では、また7月に開催できるよう早めに予約を取りたいと思っています。

次回の月例会からは、また「わくわく研修会」を再開したいと思っています。楽しみにしてください。

10月の月例会及び「わくわく研修会」は

10月28日(土) 14:00~16:00 場所は鎌倉女子大学幼稚部です

「スズランテープの可能性」～スズランテープの編み物を通して～

ちよつとつぶやきを

2人組をつくるのが苦手

この間テレビの「いちばんすきな花」というドラマを見ていたら、第1話の冒頭でこんなシーンがありました。

小学校の教室のシーンです。先生が「これから二人組をつくります。好きな人と自由に二人組になってください。」と呼びかけました。みんな「わーっ！」と席を立って二人組の相手を見つけています。でも、一人だけ椅子に座ったままの女の子が…。この子がこのドラマの主人公でした。

この場面を見て、「あー、学校あるあるだな」と感じました。この子は、何でもがんだり、何でもできる優秀な子でした。でも、二人組をつくるのが苦手で、こういう場面をいやだなと感じていました。

こういう子いますよね。先生はこういう子の気持ちをどうとらえているのでしょうか？

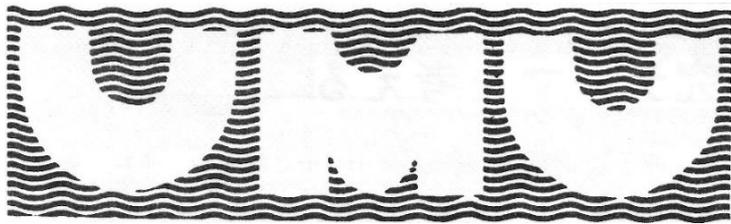
簡単に、「自由に好きな子と2人組つくって」と言ってしまう先生には、きっとこういう子の気持ちが分かっていないのでしょうか。その後、先生はこの子に何と言ってあげたのでしょうか。

一見、子どもたちに自由に決めさせているこの場面。実は、ちょっと自由をはき違えているのかな。子どもたちにとって本当の自由とは、一人一人の気持ちや思いを尊重してもらえることではないでしょうか。大切なのは安心感だと思います。

この場面は、ドラマの展開からしたらたいして重要な場面ではなく、主人公のキャラクターを紹介するだけの場面だったかもしれません。(だから、ドラマの趣旨とは全く違うと思います。あしからず)

でも、ふと、子どもの気持ちを大事にする「造形教育」と重ねて考えてしまいました。

(宮川)



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 11. 01 第52号

第43回 造形「さがみ風っ子展」を参観して

今年も女子美術大学の会場で「さがみ風っ子展」を見てきました。

ここでは、小学生と中学生の造形作品を屋内展示と屋外展示で楽しめます。

土曜日ということもあり、多くの子どもたちや保護者の方、市民の方々が、子どもたちの素敵な造形活動の成果を見に来ていました。

アートミュージアムの奥に広がる広大な芝生スペースには、広いスペースを有効に活用したり、自然との調和を考へて作品を展示したりなどの工夫が見られました。また、この日は天候もよく、降り注ぐ太陽の光できらきらと輝く作品群もあり、より素敵な光景が味わえました。

今年の造形「さがみ風っ子展」は、10月20日(金)～22日(日)の3日間にわたって行われました。

私が見に行ったのは、女子美術大学の会場でしたが、その他にも「城山公民館」「GLP アルファリンク相模原」の会場があり、計3会場にて行われていました。

相模原市内のすべての小中学校が参加し、全員の作品を展示しているようです。作品数が多いので、とてもダイナミックな展示となり、一つ一つの作品はもちろん、作品群としての美しさや力強さも感じられました。

中学校の作品で、グループでの共同作品でしょうか、ビー玉で遊べる大きな立体迷路が展示されており、小さな子どもたちが遊べるようになっていました。楽しく遊びながら作品のよさを味わえるのはとても素敵なアイデアです。



「二紀展」を見てきました

もりあげる会のアドバイザーでもある三村先生から第76回二紀展の招待券を送っていただきましたので、見に行ってきました。

地下鉄の「乃木坂駅」から直結している国立新美術館で開催されていました。同会場では、イブサンローラン展も開催されており、平日にもかかわらず賑わっていました。

二紀展では、多くの絵画や彫刻が展示されており、様々な作品を見ることにより、自然と感性が刺激されてきました。



作品展等の情報をお寄せください

学校や幼稚園・保育園等の作品展の情報をお寄せください。また、ご自身が出品されている作品展やグループ展・個展等の情報もお寄せくだされば会報や配信メールで紹介させていただきます。

もりあげる会のメール宛お願いします。 moriage123@gmail.com

ちよつとつぶやきを

何でも強制しないで！！

最近発表された文部科学省の「令和4年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果によると、国立、公立、私立の小・中学校の不登校児童生徒数が約29万9千件で過去最多となっているとの報道がありました。とっても残念で、悲しい状況です。なにより、子どもたちがかわいそうですね。原因はいったい何でしょうか？

不登校になってしまう原因については、様々な要因が調査から推測されています。「本人の無気力や不安」「生活リズムの乱れ」「親子関係」「友人との関わり」・・・など、様々な要因が挙げられていますが、その根本には、学校の体質や先生の意識なども大きく関係しているのではないのでしょうか？

われわれ教育に携わっている人間としては、子ども自身や家庭の問題として不登校を捉えることに加えて、もっと学校としての問題にしっかりと目を向けるべきでしょう。

学校や先生の問題として考えると、大きな要因の一つに、「いやなことを強制する」「みんなが同じになるように無理強いする」という学校の特徴があるのではないかと感じています。

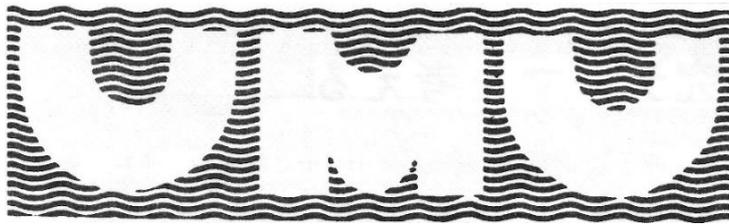
学校は、同調圧力の権化であり、教師の専制政治的な指導がまかり通っている社会です。だから、子どもたちの中には「嫌なことをいやだと拒否できない」でいる子が結構な人数いるのではないのでしょうか。拒否をしないから、子どもは嫌がっていないと勘違いして、何でも強制的にやらせる先生。でも、子どもは「拒否をしないのではなく、拒否できないでいる」のかも知れません。「変な約束や決まりでしる」「型にはめたがる」「無理に給食を食べさせる」「やたらと競わせる」・・・

先生たち「何でも強制しないでよ！！」

みんなが同じようにすることを、当たり前のように強られる。これに対する子どもの逃げ場が、不登校や登校渋りになっているのではないのでしょうか。

造形教育や造形活動は、一切強制することをしません。それは、子ども一人一人の思いや表現を尊重しているからです。造形教育が不登校問題解決の糸口になるかもしれません。

造形教育で学校や学びを変えていきましょう！！ もりあげる会が、その小さな一歩に！（宮川）



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 11. 05 第53号

10月の月例会(運営会議 & 研修会)の報告

10月28日(土) 鎌倉女子大学幼稚部にて

13:00からの運営会議では、第67回研究大会の反省と来年度に向けて、分科会やワークショップの持ち方、実践提案の発表者等について話し合いました。また、今後の月例会の持ち方やわくわく研修会の予定などの検討も行いました。

14:00からは「わくわく研修会」を行いました。

今回の研修は、スズランテープを使って編むことにより色々なものをつくってみようという活動です。武田会長が、造形遊びで使ったスズランテープを利用して何かできないかと考えて始めた活動の紹介です。初めに編んでつくるつくり方の説明があり、その後、自分で色を選んでスズランテープを編んでいきました。参加したみなさんは、つくりたいものを考えて出来上がりを予想しながら夢中になって取り組んでいました。編むという活動にこれだけ集中できるのも造形の良さですね。



11月の「わくわく研修会」予定

11月25日(土) 会場：三丁目こども園(相鉄線和田町駅下車)

「身近な材料で変身や仮装を楽しもう」

自分を変身させて、何かになりきって楽しく活動する体験をみんなでしてみましよう。そこから、子どもたちと楽しく造形活動を進めていく手立てや道筋が見えてくるはずです。

鎌倉女子大学幼稚部の作品展の案内を森本先生からいただきましたので紹介します。

鎌倉女子大学幼稚部作品展

1 日時 11月11日(土) 10時～14時50分
11月12日(日) 9時～13時50分 の間で、見学できます。

2 駐車場は、前もって予約頂ければ、駐車できるようにします。

3 室内履きをご持参いただくと助かります。(スリッパが足りないかもしれないので)

4 体調が良くない場合は、ご遠慮ください。

5 各学年のテーマ、見どころなどを紹介します。

<年少組>

「ようこそ！たんけんたいのジャングルへ」

日頃から、探検隊になりきって遊んでいる子どもたち。運動会でも探検をテーマにした競技をしました。

そして、今回の作品展では、探検隊の乗り物や、宝物、ジャングルに住む生き物などを、いろいろな材料を使って、楽しみながら作りました！

見ている私たちも、自然に笑顔になってくる、作品満載です！

<年中組>

「南の島★パラダイス」

いつも陽気で、元気いっぱいの年中組。夏のプール遊びでも、波乗りしながら遊ぶ様子は、まるで、南の島の子ども達！そこで、10月の運動会では、みんなでフラダンスを踊り、作品展では、「南の島のパラダイス」を作りました。

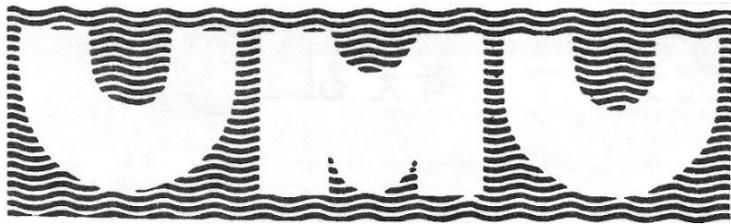
フラダンスの衣装を身に着けた、自分人形、個性豊かな島のおうちなど、楽しい作品がいっぱいです！見ている私たちも、明るく楽しい気持ちになってきます。

<年長組>

「うちゅうへようこそ」

日頃から、宇宙に興味をもって、絵本や図鑑を見たりしていた子どもたちの姿から、「はまぎんこども宇宙科学館」への遠足となりました。その時に楽しんだ経験から、作品展では、「すてきな星の国」「おぼけやしきの星」など、子どもたちのアイデアで、楽しい宇宙の世界がホールいっぱいに広がりました。見ている私たちを夢の世界へいざなってくれる、そんな作品が、天井にまで飾られています。





<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 11. 26 第54号

鎌倉女子大学幼稚部の作品展

面白いものを見てきました。

このあいだ、年長のこどもたちが作った「不思議なワクワク世界」にまよい込んでしまいました。

最初はプラネタリウムの中。くるくる回る光の色が輝く、プラネタリウムの中は、テントの天井に星が映りきれいでした。女の子たちが作った、お姫様のコーナーでは化粧台、ドレスの世界に入って、ドレスを着てニコニコしていた女の子と写真を撮って仲良くなりました。男の子たちは金星や土星や月に向ってロケットに乗って飛んでいく中で、いろいろ工夫をしていました。ロケットを上に乗せようとするのが人気で人だかりでした。

そしておばけ屋敷でした。ブラックライトが光り、暗闇のトンネルを歩いて、仕掛けがあり、近づくと光がついておばけの顔が見えてびっくりします。

また、作るのが苦手な子のために、ビデオのコーナーを作って子供が子供を撮影した映像が流れていたのにはびっくりでした。

特におもしろいことは、子どもの遊びがたくさん詰まっていて、そこから「子供たちの遊びの声」が聞こえてきたことでした。子供たちは考えて作り、そして遊びながらどんどんおもしろいことに気づいていく。先生から説明を聞いて私もこの中で遊んでみるとそこから離れられないほどでした。たくさんの素材を集めて、子供たちの「作り遊ぶ心」を育てた結果ということが一目でわかる展示でした。 嶋田 富美子



鎌倉女子大学幼稚部の作品展を見てとても心に残った感想があります。それは、子どもたちがついたり、想像したり、なりきったりすることが大好きであるという思いが作品にぎっしり詰まっていることです。そして、先生方がその作品を最大限に輝かせようと、飾り方を工夫されていることです。正に子どもと先生の合体作品でした。大人の発想では思いつかない子どもの発想を、先生が上手に取り上げて広げていっていることに感動し、おもしろいな～と思いながら見ました。

年長組のテーマは「宇宙へようこそ」でした。ホール全体が宇宙に変身していて、宇宙飛行士の自分人形が楽しそうに展示されていました。おぼけの星、プラネタリウムなど、ワクワクする展開がありました。参加者がロケットを飛ばせる装置もあり大人気でした。

年中組のテーマは「南の島☆パラダイス」でした。教室に入ったら音楽がかかっていて本当に南の島に上陸したような気持ちになりました。教室にはカラフルな家がたくさん展示されていました。1つひとつの家には子どもが住んでみたいという夢が詰まっていた。

年少組の「ようこそジャングル探検へ!!」では、年齢に合わせた題材で取り組み素敵なものに見立てていました。未就園児クラスのものも、親子で楽しくできる内容で工夫されていました。現在の小学校の図工でも取り入れる事ができそうな部分もあり、大変参考になりました。鎌倉女子大学幼稚部で、たくさん体験した子どもたちが、将来どのように成長していくのかも楽しみです。ずっと見ていたい作品展でした。ありがとうございました。

松本 有加



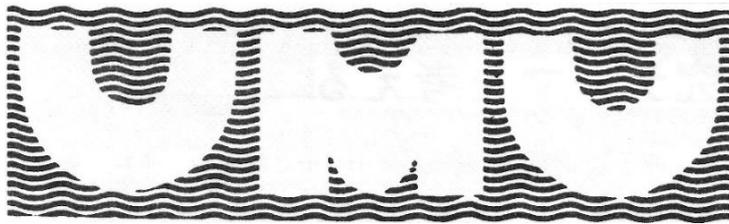
年少さんは自由に自分の世界を表現していて、これからの余白を感じました。

年中さんは、空き箱を使ったお家や、紙粘土で作る自分など「年中でなかなかやれないな」と思う素材を使っていて、驚きました！こちらで素材を制限してはいけないと思いました。

年長さんはパワーに圧倒されました。プラネタリウムやライトがつくお化け屋敷など、子どもたちから「やりたい」と声が上がっても、形にできなかったのですが、先生が子どもたちと試行錯誤して失敗しても諦めず、作り上げているのがよく分かり、とても勉強になりました！

年少さんからの積み重ねが大事だと改めて感じました。

武田 優子



<https://www.zoukeimoriage.com/>



造形教育をもりあげる会

会長：武田晴信

編集責任：宮川友二郎

moriage123@gmail.com

2023. 11. 28 第55号

11月の月例会報告

11月25日(土)相鉄線和田町駅近くの「三丁目こども園」にて 参加者：13名

前半の運営委員会では、おもに、もりあげる会の活動テーマ及びスローガンについて話し合いました。

テーマ・スローガンについては、次の会報にて詳しくお伝えできればと思います。

まずは、後半に行った「わくわく研修会」の様子をご報告いたします。

11月の「わくわく研修会」の様子

「ないきり、ないきり 私は何でしょう？」

～～身近な材料で変身や仮装を楽しもう～～

嶋田さんの進行で、まずは、お互いが心を解放して打ち解け合える活動を。声を出さずに動きと表情だけで挨拶をしたり、握手やタッチを加えたり、じゃんけんで宝くじカードを取り合ったりと、ゲーム感覚で動いているうちに、すっかり心が解放され、自然と初対面の人とも打ち解けてきました。

さあ、そこから造形活動の始まりです。用意された身近な材料で、思いのままに自由に変身してみましよう。新聞紙や包装紙、ビニール袋など、一見変身に使えるようなものが見当たらないような感じですが、とりあえず何かを身に付けてみると、次第にあれもこれもと付けてみたくなってきます。

ここで発見。スズランテープを体に巻き付けておくと、そこにいろいろな材料を簡単に付けることができます。直接着ている服に付けようとするすると抵抗があるものの、スズランテープであればホッチキスでもテープでも洗濯ばさみでも、簡単に付けることができますし、何回も付け直すこともOKです。

「これつけてみようかな」「こっちの方がいいかな」「ここに付け直してみよう」・・・と、いろいろ試行錯誤しながら自分の思いに合わせて楽しめます。

自分のことに夢中になって活動しながらも、周りの人の様子が自然と目に入ってきます。面白いなと思ったり、なるほどと感心したりと、楽しく刺激を受けながら活動が進みました。

同じ材料で、同じように活動を初めても、活動タイプがいろいろです。

とにかく面白そうなものをどんどんつけていくタイプ。見つけた材料をちょっと細工しながら付けていくタイプ。洋服や帽子のように、形や飾りをしっかり作ってから着たり被ったりするように身に付けていくタイプ。まさに人それぞれ。「みんなちがってみんないい」です。



(嶋田先生と一緒に参加されて研修のお手伝いをしてくださった山田教子先生から、嶋田先生宛に届いた感想を一部紹介させていただきます。)

昨日は、朝早くから、お疲れ様でした。素材のお荷物も、あんなに沢山ご用意されて。お車ではなく、電車での移動でいらしたので、大変だったかと思います。

役員の方も色々な素材をご用意して下さい、嶋田先生との素材と相まって、参加された皆さんの心をくすぐった様に思います。参加されたみなさんの、子どもの目線になって、子どもの心になって、楽しんでいた姿がとても印象的でした。あんなに喜々として、目を輝かせて、素材に食い付いていた姿は、子どもと変わりません。素敵な光景でした。(グッド)

音楽に合わせて歩いたり、挨拶したり、ポーズをしたり……はたまた言葉を交わしたり、何をやるんだろう！何が始まるのだろう！と言う表情は、興味津々笑顔とちょっと緊張、そして不安と……色々な感情が入り混じっていて、それも子ども同様かな(?)なんて思いながら、ピアノを弾かせてもらっていました。何しろ、始まりから終わりまで、笑顔と笑い声と高揚したお声と、お部屋の中には、幸せ満開、素敵な空間でした。



横浜国立大学教育学部附属横浜小学校の研究集会のお知らせ

2023年12月15日(金)・16日(土)

「未来を拓く子」

～感性をはたらかせ材や人とかがわる～(2年次)

もりあげる会の会員でもあり、前回の研究大会では、ワークショップを実践して下さった大高伸弘先生から案内をいただきました。

図工の授業は、大高先生と阿部先生が金曜日に提案授業を行います。

他にも、各教科と総合単元学習の提案授業があり、先進的な研究の成果を見ることができると思います。

会員の皆様には、メール配信で、授業及び研究協議会の日程と、申し込み方法を記載したパンフレットを添付しますので、興味のある方は、直接学校にお申し込みください。

